



ケービープラテック  
代表取締役社長

大西 一成氏

い製品提案を行  
つていくことが  
当社の存在意義  
であり最大の強  
みとして当社を  
特徴付けている  
ものと考えま  
す。「ケービー  
さんならやっ

注いでいきたいと考  
えます。  
マーケッががあっ  
てこそ製品開発で  
あると考えます。ま  
た、ポリウム感、  
見映えなど成形技術  
によって全てが変わ  
ります。これこそが

められる要求は多岐  
にわたっており、必  
ず「欠点」があり、  
改善の余地があると  
して最良の製品を目  
指すことを意味して  
います。批判的な声  
を聞き、それを真摯  
に受け止めて近付い  
ます。

原材料価格は下が  
っているようですが  
電力料・物流費は上  
昇し、コスト負担は  
増えています。今年  
も順風と言えるよう  
な環境にはならない  
と思いますが、新製  
品開発に力を注いで  
いきたいと思いま  
す。昨年は「KIP  
シリーズ」の充実を  
図り、PSP製丸カ  
ップなどを製品投入  
しました。今年も并  
容器・弁当容器など  
で新たな提案を計画  
しています。今後も  
差別化を図り当社  
の存在を関連業界  
で鮮明にしていき  
たいと強く念願し  
ます。

国内を代表する容  
器メーカーが数多く  
ある中で、当社がマ  
ーケッにおいて存  
在感を発揮するため  
には、他社と差別化  
を図る獨創性に富ん  
だ製品提案をほない  
かと考えます。常に  
心に期していること  
は「発想力」は無限  
大であり、それを力  
タチにするため、  
潜在的な領域に挑  
み続け新たな市場

## 発想力と獨自性鮮明に

### 信頼と安心感提供の開發続けて

を創ることが当社  
に課せられた使命  
であるということ  
です。  
加えて、大手メー  
カーが競合する業界  
事情の中で大量生産

型の容器とは一線を  
画す、当社ならではの  
設計開発ができる分  
野、「ニッチ」と呼  
ばれるようなマーケ  
ッにも訴求力の高

くれる「形態は同じ  
でもケービーさんの  
方が品質が高い」と  
の信頼、安心感を抱  
いていただけるよう  
に今年も精一杯、開  
発と技術進化に力を

「容器の持つ力」だ  
と思えます。  
しかし、その中で  
従業員には「技術に  
惚れない」というこ  
とを言い続けていま  
す。これは容器に求

る努力、ニーズはど  
こにあるのかを探す  
努力を怠らず技術レ  
ベルの向上に取り組  
んでまいりたいと思  
います。

新年を迎え、昨年  
の総括と今年の事業  
展望を二言申し上げ  
れば、昨年は新規開  
拓に徹して取り組ん  
だ一年だったと思ひ  
ます。結果として業  
界でも大手とされる  
食品メーカーさんな  
ど多くの新たな取引  
先への製品加工を行  
うようになりました。  
作業現場には厳しい  
衛生基準を求められ  
ますが改善に努め、  
ニーズにマッチング  
させるように努めて  
います。